

## 審 査 の 結 果 の 要 旨

氏名 池田 智子

本研究は、労働者のストレス対策に関心の高まるわが国において、いまだ実態解明が遅れている中小企業労働者に焦点をあてたものである。はじめに、インタビューによる質的研究を行い、世界で汎用されているNIOSH職業性ストレス調査票のみではとらえきれない中小企業労働者に特有の実態を把握し、NIOSH職業性ストレス調査票に加えて独自の調査票を作成した。次にこの調査票を用いて2,591人を対象にした疫学的研究を実施し、わが国の中小企業労働者に見られる抑うつの実態とその関連要因を明らかにした。本研究を通して得られた結果は下記のとおりである。

1. インタビューによる質的研究から得られた中小企業労働者のストレス要因  
「社内に同年代の仲間の有無」「経営者との縁故関係」「会社の将来の曖昧さ」「健康に対する周囲の無理解」等、これまでの職業性ストレスの測定尺度にはない項目が、新たに抽出された。
2. 疫学的研究による中小企業労働者の職業性ストレスの特徴  
NIOSH職業性ストレス調査票の各項目を、全国の大企業労働者のデータと比べると、男女とも「抑うつ」と「職場のグループ内の心理的対人葛藤(以下、対人葛藤)」が高いことが明らかになった。高い抑うつ傾向には、「量的負荷」「対人葛藤」「仕事の将来の曖昧さ」「健康に対する周囲の無理解」という多様な要因が関連しており、これまで欧米各国で数多く見出されている「仕事の要求度と自由裁量権のアンバランス」や「仕事と家庭の葛藤」のみでは説明できないものが多く含まれていた。基本的属性では、男女とも「34歳未満」「独身者」に高い抑うつ傾向が認められた。
3. 男女差の認められた抑うつの関連要因  
男性でのみ、「仕事から家庭への葛藤」「家庭から仕事への葛藤」の両方が高いほど抑うつが高く、また「既婚」「家族の社会的支援」が高いほど抑うつ

## [別紙2]

つが低いという関連が示された。一方女性では、「経営者またはその家族」という立場はそれ以外の一般従業員に比べて抑うつが高く、「職場の社会的支援」が高いほど抑うつが低いという関連が認められた。経営者またはその家族の女性は、「量的負荷」と「対人葛藤」が高いほど抑うつが高かった。従来の大企業中心の研究では、仕事のストレス要因や家庭関連要因が精神健康に及ぼす影響の男女差に関して、統一した知見が得られていないが、本研究における男女差は顕著であった。

### 4. 中小企業労働者のストレス要因の背景

中小企業労働者の抱える問題の多様性、独自性が、本研究より明らかにされたが、その背景には、中小企業の経営的・組織的特徴、経営に直結する人間関係の重要性、技能と共に伝承される職場文化、近年の不況の影響、若年層の伝統職場参入への不適応、女性家族従業員の家業に対する姿勢、男女の性別役割意識、というような事象が存在することを、インタビューにより考察した。

### 5. 本研究から導き出される中小企業労働者へのストレス対策

職場全体で取り組む課題として、健康重視の新たな職場文化の構築と、経営者またはその家族の女性労働者に対する理解と支援が考えられた。職場外からの健康支援としては、失職不安のため健康診断や受診を避ける傾向があるため、現行の「健康診断」中心の保健活動に加えて、仕事と健康の両立を目指す長期的関わりが必要であると考えた。また、若年層の職場適応と技能伝承という中小企業の重要課題と健康を両立させるために、閉鎖的人間関係を打開し、中小企業の技能を公に評価、保護、保障していくことが必要と考えられた。

本研究は、インタビューによる質的研究とわが国最大規模の疫学的研究を同時に実施したことにより、これまで詳細が明らかにされていなかった中小企業労働者の抑うつとその関連要因の実態を明らかにした。また、欧米あるいは日本の大企業労働者における職業性ストレスの構造とは異なる固有の問題が存在することを突き止めた。それによって、独自の具体的対策への示唆を導き出した。このため本研究は、産業保健学研究に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値すると考える。